

聽覚障がい

全く聞こえない、わずかに聞こえる、雑音が混ざるなど、人によって聞こえ方が様々です。

【配慮】筆談や手話、口話など、お互いが可能なコミュニケーション方法を確認する。

視覚障がい

全く見えない、細部がよく分からず、見える範囲が狭いなど、人によって見え方が様々です。

【配慮】点字ブロックの上に障害物を置いたり、立ち止まつたりしないようにする。

肢体不自由

上肢（手や腕）や下肢（足や脚）、体幹に障がいがあり、体を思うように動かせない人などがいます。

【配慮】車いすを使用している人などの移動やドアの開閉などを手伝う。

理解して即実践 今日からできる

6つの“障がい者への配慮”

精神障がい

統合失調症やうつ病などの様々な精神疾患により、日常生活や社会生活のしづらさを抱えています。

【配慮】不安に感じさせないよう、穏やかな対応やコミュニケーションを心がける。

知的隙がい

発達期において知的機能の障がいが現れ、社会生活への適応のしにくさがあります。

【配慮】「ゆっくり」「はっきり」「ていねいに」話し、絵や図などを使ってわかりやすく説明する。

内部障がい

心臓、呼吸器、じん臓、膀胱・直腸、小腸、肝臓、HIVによる免疫機能障がいで、環境の影響を受ける人がいます。

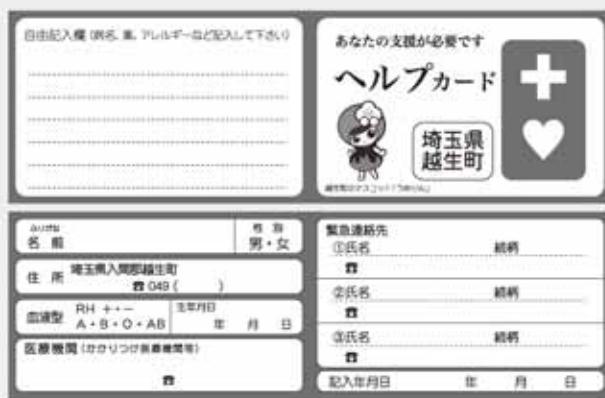
【配慮】携帯電話やタバコの煙など公共の場でのルールを守る。

手助けが必要な人としている
人をつなぐ「ヘルプカード」

え、約22人に1人が何らかの障がいを抱えています。

障がいのある人の中には、災害時や日常生活の中で、周りのサポートが必要なときに、自ら困っていることを伝えることができない人もいます。必要なときに適切な支援が受けられるよう、ヘルプカードやビブスなどがあります。

みなさんの周りに支援を必要とする人はいませんか



▲「ヘルプカード」健康福祉課窓口で配布しています

などを記入するカードで、障がいのある人や高齢者などが災害時や日常生活の中で困ったときに、必要な支援や適切な医療などを受けやすくするためのものです。

「ちょっとと手助けが必要な人」と「ちょっとと手助けしたい人」をつなぐきっかけを作ります。

ヘルプカードは、幅広く知れ渡ることで初めて機能します。そのためには積極的な周知が必要です。それによって、ヘルプカードを必要としている方の存在や障がいへの理解を広めることができま

= 特集 =

障がいのある人やない人も
地域の中で“いきいき”と



障がい者のための国際シンボルマーク

障がい者が利用できる建物や施設などであることを明確に表すためのマーク



身体障がい者標識

肢体不自由であることを理由に免許に条件を付されている方が運転する車に表示するマーク



耳マーク

聞こえが不自由なことを表すマーク



ほじょ犬マーク

身体障がい者補助犬同伴の啓発のためのマーク

まちで見かける
知っておきたい!

8つの“障がい者のマーク”



聴覚障がい者標識

聴覚障がいあることを理由に免許に条件を付されている方が運転する車に表示するマーク



盲人のための国際シンボルマーク

視覚障がい者の安全やバリアフリーに考慮された建物、設備、機器などに付けられるマーク



オストメイトマーク

人工肛門・人工膀胱を造設している人（オストメイト）のための設備があることを表すマーク



ハート・プラスマーク

身体内部（心臓、呼吸機能、腎臓、膀胱・直腸、小腸、肝臓、免疫機能）に障がいがある人を表すマーク



▲「視覚障がい者用のビブス」

考えよう！誰もがいきいき
できる地域づくりとは

今回の特集では、みなさんが障がいについて「気づき」「考える」ことを目的としました。障がいに

活動を支援するため、町では視覚障がい者用のビブスを作成しています。視覚障がい1、2級の方が対象となり、ビブスは福祉避難所に常備しています。

視覚障がいのある人が、避難場所などでこのビブスを身につけることで、周囲の方の支援を必要となる支援が受けられるようになります。

災害時支援が受けられるように「視覚障がい者用のビブス」災害時に視覚障がい者の避難生活を支援するため、町では視覚障がい者用のビブスを作成しています。視覚障がい1、2級の方が対象となり、ビブスは福祉避難所に常備しています。

視覚障がいのある人が、避難場所などでこのビブスを身につけることで、周囲の方の支援を必要となる支援が受けられるようになります。

障がいについて正しく理解し、日常生活や社会活動の中でサポートすることにより、障がいのある人たちの社会参加の機会は広がります。

これを機に、改めて障がいについて考えてみてください。私たちが今後どうすればよいか、「考える」ことで社会は変わっていくはずです。

誰もが住み慣れた地域で、安心してその人らしい生活が送れるような社会を、共につくっていきます。

も暮らしやすくなるきっかけになることを願っています。



健康福祉課
主事 倍前達也